

Topic 59

米国フロリダ州のドライクリーニング有機溶剤浄化プログラム（その2）

- 1) 期間限定！！プログラムへの自主登録を募る
- 2) 溶剤漏れに関するアンケート調査

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。
今週もフロリダ州のドライクリーニングの汚染サイトに関連したお話をいたします。

1) 期間限定！！プログラムへの自主登録を募る

フロリダ州の環境保護局が運営する「ドライクリーニング有機溶剤浄化プログラム」は、米国で初めて設立されたドライクリーニング汚染サイトの浄化を促進させるためのプログラムです。プログラムの特徴の1つが、期間限定で汚染サイト所有者や事業者の自主登録を募ったことです。期間は1996年3月～1998年12月までの2年10ヶ月。汚染サイト所有者、施設所有者、あるいは経営者らは、この登録チャンスを逃すとインセンティブを受ける資格を失うことになります。ですから、これは召集効果があったのではないのでしょうか。

最終的に1566店舗の登録がありました。そのうちの約7割が1998年12月時点において活動中の施設だったそうです。

プログラムのインセンティブは、例えば、浄化費用のためのファンドが利用できることや、環境保険加入に関する適切な情報・価格に関するアドバイス等を受けられること、それから環境負債を限定することにおいて州が大変協力的であること、などが挙げられます。VCPのように、州が不起訴契約まで面倒をみるのかどうかは確かめておりません。わかり次第お伝えいたします。

2) 溶剤漏れに関するアンケート調査

1) でお話したとおり、同プログラム登録総数は1566店舗。これら全ての店舗を対象としたアンケート調査結果によると、348店舗で530回の溶剤漏れが生じたことがわかりました（漏洩の規模はまちまち）。何が直接の原因で有機溶剤が漏れてしまったのか？ 調査結果は以下のようになりました。

- 設備故障のために漏れた（40%）
- 設備運転時に漏れた（21%）
- 溶剤を取り扱っている際に漏れた（15%）
- 設備管理時に漏れた（14%）
- 廃液排出時に漏れた（9%）
- その他（1%）

溶剤が漏れるのは、ドライクリーニング装置の故障によって生じるケースが一番多い、という結果になったようですね。これは米国環境保護庁（USEPA）が実施した調査結果と一致しています。特に、洗浄槽のドア部分のパッキンから溶剤が漏れるケースが一番多いとのこと。

2番目に多いのが設備運転中に漏れるケース。これは装置エラーではなくて装置を操作している人のエラーだそうです。残念ながらエラー発生の原因については特定できないケースが多いとのこと。

日本のクリーニング屋さんで溶剤の漏れが発生しているとする、その原因は何なのでしょう。

近年、すばらしい水洗浄の技術とケアメンテの開発により、ドライクリーニングに頼らなくてもお洋服をきれいに保つことが可能になっています。しかし、その普及度合いはまだそれほどはありません。私達の生活からお値段が手ごろな従来型のドライクリーニングが「突然」消え去ることはまずないでしょう。ということは、より環境に配慮したクリーニングサービスが普及す

るまでの間、ドライクリーニング事業における未然防止施策が大切になってきますよね。未然防止を実行するためには、まず現場で何がおこっているのかを「知る」ことが必要です。

フロリダ州はクリーニング屋さんの実態を知るために、州の法律を作り、プログラムを開発、そしてファンド設立・環境負債や保険に関する相談・協力等のインセンティブを提供しました。日本ではどのようなアプローチがピッタリくるのでしょうか。

環境メルマは、来週から冬休みに入ります。

皆さま、どうぞよいお年をお迎え下さい。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

Thanks God It' s Monday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

ドライクリーニングについて調べていたら、こんな話が出てきました。

クリスマスイブの夜、サンタクロースは子供たちのいる家にくると、プレゼントの大きな袋を持って、その家の煙突から音を立てないようにしてそっと入ってきます。その大きなおなかで、せまい煙突を通ってくれば、真っ赤なスーツは煤（すす）で当然まっくろに。一晩に750回も着替えるので、クリーニング代が馬鹿にならない…のだそうです。

さて、前回のTopic 58 本文に出てきた、ドライクリーニング業サイト浄化修繕のための米国州連合（SCRD: State Coalition for Remediation of Drycleaners）について、ちょっと補足しましょう。サイトアドレスは<http://www.drycleancoalition.org/>。このサイトを開くと、左側の上から、「お知らせ」「ニュースレターの申し込み」「会員ページ」「浄化サイト情報（Topic58で紹介済み）」「出版物」「州のプログラム」「連邦のプログラム」「参考文献など」「リンク」「ご意見」となっているのがわかります。2番目のニュースレターは半年に1回、Eメールで配信されるもので、だれでも申し込むことができます。過去のニュースレターは、「出版物」のところで見ることができるので、興味をわいてきたかたは申し込んでみてはいかがでしょうか。今年のメルマは、アメリカの各州のブラウンフィールドの仕組みを見てきました。50州走破までには、もう少し時間がかかりますが、ここまでご一緒していただいた皆様に厚く御礼申し上げますと同時に、今年の苦労と努力と成果をしみじみと思い出してみたいと思います。

では、また来年にお目にかかります。